

じゅくこう

第76号
(通算416号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

・8月20日(水)
10時～11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・8月21日(木)
19時～20時半
・参加費1000円

第25回 浄覚寺こども会夏のつどい

七月二十日(日)恒例の浄覚寺こども会を開催しました。コロナで中止の年もありましたが、今年で二十五回目を迎えることができました。皆さまのお陰です。

さて、当日は本当に暑い日となりましたが、夏の定番となっており「流しそうめん」で楽しめました。テントを張って日陰を作り、その中には約20メートルにもなる巨大なそうめんの流れる道を作ります。流すものは、そうめんはもちろんのこと、うどんに蕎麦、ミニトマトやキュウリにウズラ卵など。流せるものは何でも流します。デザートにはミカンやゼリーまであり

ましたが、皆お腹いっぱいになるまで喜んで食べてくれました。

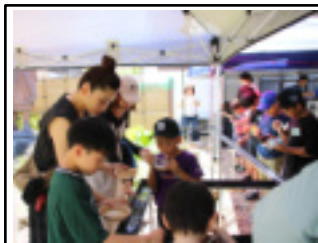
お寺の子供会ですから、始まりと終わりにはお勤めをしてご法話をします。今回の制作の時間には腕輪念珠を作りましたが、お念珠とは何だろう、手を合わせるとはどんな意味があるのだろうか、というお話を聞いてもらいました。

まずはお念珠のお話し。お念珠には少し大きな珠が一つと小さな珠が二つ、そしてそれ以外の珠が輪になつてつながっています。大きな珠は阿弥陀さまです。また小さな珠は両親です。そして私や友だち、知ってる

人も知らない人も同じ珠で一つにつながっています。それも輪になっていることが大切で、そこには前後や上下、善悪は出てきません。阿弥陀さまの思いは、比べることなく手を取り合って生きて欲しいという願いがお念珠の形に表れているのだとお話ししました。

それでは手を合わせることにはどんな意味があるのでしょうか。私たちの手はとも上手に道具を使います。例えば料理をするときには包丁はなくてはなりません。けれど使い方を誤ると人を傷つける凶器に変えてしまいます。手もそうです。手を握ってしまつと相手を殴る拳に変わつ

てしまいます。手は開いたままで、相手の頭をなでてあげて欲しい、相手を抱きしめてあげて欲しい。縁があれば何をしてしまふかわからない私であるから、どうか手を合わせ、お互いに敬い合つて生きて欲しい、そんな願いが合掌の姿に込められているのです。



染香人のその身には

香氣あるがごとくなり

これをすなはちなづけてぞ

香光莊嚴とまうすなる

親鸞聖人『浄土和讃』



御文章に聞く(第69回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

一切女人章(五帖第十七通)
それ、一切の女人の身は・後生を大事におもい・仏法をとうとくおも
う心あらば、なにのようもなく・阿
弥陀如来をふかくたのみまいらせて、
もろもろの雑行をふりすてて・一心
に後生を・御たすけ候えと・ひと
たのまん女人は、かならず極楽に往
生すべきこと・さらに疑あるべから
ず、かようにおもいとてののちは・
ひたすら弥陀如来の・やすく御たす
けにあずかるべきことの、ありがた
さ・またとうとさよとふかく信じて、
ねてもさめても・南無阿弥陀仏 南
無阿弥陀仏と・申すべきばかりなり、
これを信心とりたる・念仏者とは申
すものなり、
あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。
「後生」という言葉を続けて聞かせて
いただいております。「後生の一大事」
とも言いますから、「いのち」の問題が
とても大切だということでした。
では、皆さまにとって「一大事」なこ
とは何でしょうか。こんな話を聞きました。
とあるご住職が「門徒に法座の参詣
を勧めたところ、「足が痛くて」と言
われたそうです。そこで「イスを用意し
ましたよ」と言うと、今度は「身体が痛
くて」と答えられたそうです。「そう
ですか」と応じられたそうですが、「身
体が痛くて」と言われた方も、おそら
く日々の買い物には足を運ばれているの
だと思えます。けれど、今に買い物すら
できない日が来てしまいます。その時に
は、何を依りどころとされるのでしょうか。
人間にとって、一番大切なものを聞
かせていただくこと、これが「後生の一
大事」なのです。

仏教語辞典



お経には仏教の教えが明瞭にあらわれている部分と、表には見えないが、隠された真意とされる部分がある。この隠された部分を「隠密」という。仏教は忍者のように姿は見せないが、しっかりと存在し人々を導くのである。

隠密

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。
お念仏を喜ぶお同行、篤信者のことを昔から浄土真宗では妙好人とか染香人などと呼び習わしております。芳しい香りの働きによって、さまざまに物へ香りが染みこんでいくように、その姿や生きざまを通してお念仏の香りを放たれ、また有縁の方々にお念仏のご縁を結んでください。人の持つ五感の中でも嗅覚は重要です。物の腐敗を感じ取る重要なセンサーでもありますし、人との相性の中で匂いというものも大切な要因となります。また、懐かしい香りを感じると昔の思い出や情景が思い浮かぶように、故郷を感じさせてくれる役割もあるようです。皆さまにはホッとできる優しい香りがありますでしょうか。(釋法道)

浄覚寺の公式LINEにぜひご登録ください。
デジタルで「じゅこう」をお届けします。



9月

九月二十三日(祝) 十四時より
秋季彼岸会 法話 赤井智顕先生

日時・八月十五日(金) 十四時より
行事・孟蘭盆会並びに 門信徒総追悼法要
場所・長原浄覚寺
法話・花岡静人先生(奈良)
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

行事案内

